

平成三十一年度入学者選抜 適性検査Ⅰ

注意

- 一 指示があるまで、この用紙を開いてはいけません。
- 二 問題は から までで、1から16ページまで印刷してあります。文字などの印刷がはつきりしないところや、ページが足りないところがあれば、静かに手をあげなさい。
- 三 検査時間は五〇分間で、終わりは午前一〇時五〇分です。
- 四 声を出して読むではいけません。
- 五 受験番号を解答用紙の決められたところに記入しなさい。名前を書くところはありません。
- 六 答えはすべて解答用紙に書きなさい。決められた字数で答えを書く場合は、解答らんの一ます目から書きなさい。
なお、句点（。） 読点（、） かぎ（「」）なども一字に数えることとします。
- 七 答えを直すときには、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 八 文章の中の※が付いている語句には、それぞれの文章の終わりに意味の説明があります。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学生の理央は、ペットショップで売られていたタカを買ってもらい、モコと名付けて育てはじめた。理央は、鷹匠（タカに狩りをさせるために、飼育、訓練をする人）を目指し、モコを空高く飛ばしたいと願っているが、思い通りにいかないことに悩んでいた。そこで、理央はモコを連れて、タカやハヤブサを訓練している女子高生の平橋さんを訪ね、訓練の仕方を教わることにした。

「モコちゃんも飛ばしてみよう？」

平橋さんが言った。

「はい、やってみます。」

理央はポケットから笛を取り出した。

「ここでならうまく飛べるかもしれない。」

「モコ、行くよ。」

力をこめて言い、笛を口に含んだ。

柿の木は二メートルほどの高さで、モコが本気を出せばなんと

かなりそうだ。理央はモコによく木を見せてから、いつものよう

に風の具合を確かめた。風の力を借りられるように、モコにとっ

て追い風になる位置に移動する。

「ピッ。」

短く笛を吹くと、モコはさっと飛び立った。が、木の枝までは

たどりつけず、数メートルはなれた石の上で羽を休めてしまっ

た。理央は迎えにいき、もう一度、木を見せる。

「モコ、あの木までだよ。ピッ。」

ふたたび合図を送る。だがモコは、飛び立ちはしたものの、また途中で上昇をあきらめてしまった。しかたなく迎えにいこうとする理央を、平橋さんは制した。

「使い手は動いたらだめ。主従関係をよくわからせんと。呼んで。」

「はい。」

理央はモコに腕を見せた。

「モコ、おいで！ピッ。」

強く笛を吹く。モコは様子をうかがうように理央を見た。

「ピッ。」

目が合ったので、もう一度、笛を吹く。と、飛び立ってすーっと腕に戻ってきた。

「そこでえさをあげて。」

「はい。」

理央は腰にくくりつけたかごからえさをモコにあたえた。笛の合図で飼い主に戻ったら、えさをあたえて条件づけをする。

「もう一度、飛ばしてみます。」

理央は奥歯をかみしめた。慎重に風を測って、立ち位置を決める。すると、平橋さんが意外なアドバイスをくれた。

「逆に立ってみて。」

「えっ？」

「モコちゃんにとって、向かい風になるように飛ばしてみて。」

「それじゃあ、飛びにくくないですか？」

理央はきよんとして言った。これまでずっと風を背にして飛ばしてきたのは、モコの負担を考えてのことだ。うまく飛べない

40

モコを「A」が助けてくれると思っていた。なのに、今のアドバイスはまったく逆だった。

「B」の方が鳥は飛びやすいんよ。鳥の上昇と風の向きが

逆方向のほうが、うまく気流に乗れる。」

「えー、そうなんだ？」

理央は、目を丸くした。確かにモコが飛べるようになって二か月経つが、高度はなかなか上がらない。毎日、訓練は重ねているにもかかわらず、設定した目標まで一度も到達したことがない。ハンドブックには、生後初めての羽根の生えかわりが終われば、自由な飛行ができると書いてある。二度目の生えかわりを終えているモコが、自由に飛びまわれないのは、やはり訓練開始が遅すぎ

50

たせいかもしれないと思っていた。しかし、風向きのせいもあつたのだろうか。

「やってみます。」

半信半疑のまま、理央は風に向かって立った。モコに柿の木を見せる。少しだけ、風が強まった。

「ピッ。」

短く笛を吹く。モコが翼をはためかせた。

「あっ。」

そのとたん、モコの体はふわりと浮かんだ。今まではぜんぜんちがう。見えない風をつかまえて、モコはぐんと上昇した。

「飛んだ。」

黒っぽい影のようになったモコの羽がいつもより軽やかに上下しているのがわかった。風をしなやかに切っている。

木につくまでたった二メートルほどの距離なのに、ずいぶん長い時間を感じた。時間が止まったみたいだった。

「すごい。」

柿の木の上についたモコは理央を見ていた。くちばしを半開きにして、少し不安げにもほころしげにも見えた。

「モコ、戻れ！ ピッ。」

力をこめて笛を吹く。待っていたようにモコは飛び立った。そして、翼を広げてゆるやかなカーブを描きながら、理央の腕に戻ってきた。

70

60

「よし！」

腕に重みを感じた瞬間、体にびりびりとしびれが走った。

やったあ！

理央はモコを乗せた左手をぐつとにぎりこんだ。

「よかったね。」

平橋さんがほえんだ。

「はいっ。」

「わたしも最初は、追い風のほうが楽だと思ってたんよ。でも、よく見ていたら、どうも自分から飛ぶときは風に向かっていってみたいやったの。で、逆に飛ばしてみたらうまくいったの。」

「すごいですね。」

理央はつい大きな声になる。平橋さんの観察力に感心してしまつたのだが、本人は少しかんちがいしたようで、

「本当に夕力はすごいと思う。本能的にいろんなことを知ってるからね。それを尊重する心の広さをもたんとね。」

と、笑つた。

訓練を終えたあと、発信器のつけ方を教えてもらつた。発信器は尾羽につけた鈴の少し下につける。大きさは鈴より少し小さく円柱形だ。飛び方を覚えた鳥には何があるかわからない。

「うちのハヤブサも、家出したことがあつたんよ。」

平橋さんは話してくれた。長くタカやハヤブサを飼っているあいだには、順調なことばかりではなかつたらしい。迷子になつた

90

80

り、けがをしたり。はじめに飼っていたハヤブサが死んでしまつたときには、ずいぶん落ちこんだという。きいているだけでも落ちつかなくなるような話で、理央はつい両肩をちぢめた。

そんな話を淡々としてくれた平橋さんは、最後にしつかりとした口調で、

「それでも、」

とつけ加えた。

「この子たちを育てる過程のひとつひとつにドキドキするよ。」と、笑う。その声が力強くて、理央は自分まではげまされるような、こがれるような気分になつた。

こんなふうになりたい。

なんとか発信器をつけ終わった。初めてのことで、理央は少し手こずつたが、えさを食べたばかりのモコは落ちついていて、発信器をつけて、一人前の鳥になつたことを氣どっているようにも見えた。

110

※1 主従関係……従えるものと従うものの関係のこと

(まはら三桃『鷹のように帆をあげて』講談社による。出題のために省略した部分、表現・表記を変えたところがあります。)

問(一) 文章の中の空らん「A」、「B」には、どのような言葉が入りますか。文章の中から、それぞれぬき出して書きなさい。

(二) — ①の部分「かんちがいした」とありますが、だれが何をかんちがいしたのですか。かんちがいした内容が分かるように、五十字以内で、具体的に説明しなさい。

(三) みどりさんたちは、この文章の表現の工夫について話しています。次はそのときの【会話の一部】です。

~~~~~の部分「モコが理央にどのように見えたか」が書いてあるところを文章の中からぬき出し、モコのどのような気持ちを感じられるかを、説明しなさい。

#### 【会話の一部】

みどりさん

この作品は夕力であるモコの気持ちも読み手に分かるように書いてあるところがいいと思ったよ。例えば、25行目の「モコは様子をうかがうように理央を見た。」のところからは、理央に戻ってくるように指示されたけれど、戻ろうか待っていか迷っている、モコの気持ちを感じられたよ。

たかしさん

たしかにそうだね。それに、理央もモコの様子から気持ちを感じ取っているようだよ。モコが理央にどのように見えたかが書いてあるところから、モコの気持ちを感じ取ることができて、ぼくはモコに親しみがわいたよ。

みゆきさん

私もそう思う。例えば、110行目からの「一人前の鳥になったことを気どっているようにも見えた。」のところからは、発信器をつけてもらい、飛び方を覚えた一人前の夕力になれたと得意になっているモコの気持ちを感じられたわ。

（会話が続く）

二

たかしさんの小学校では、六年生が、福井の偉人について発表します。たかしさんは、藤野厳九郎について調べることに決めました。たかしさんが集めた次の資料を読んで、あとの問いに答えなさい。

資料1

『ふるさと福井の先人100人』の「藤野厳九郎」

厳九郎は、敦賀県坂井郡下番村（現在の福井県あわら市下番）で代々医者を営む家に生まれました。父は緒方洪庵という人のもとで蘭方医学を学び、帰郷後、福井藩からの招きを断り、地元のために村で医療を続けた生真面目で一徹な人物でした。

厳九郎は小学校に入る前から、そうした父に漢学を学び、小学校は五キロほど離れた丸岡の平章小学校に通いながら、隣村の私塾でも、漢文や習字、そろばんなどを習っていました。

その後、福井尋常中学校に進学し、二年の時に愛知県立医学校に入学。医学校では成績抜群で、剣道も強く、文武両道に秀でた学生でした。

愛知県立医学校を卒業した厳九郎は、同校の解剖学教室の助教や生命保険会社の社医、東京帝国大学の解剖学研究室を経て、仙台医学専門学校に移りました。

厳九郎が教授になった明治三十七（一九〇四）年、中国人留学生の魯迅（この頃は本名の周樹人）が入学しました。当時の日本社会は、日清戦争や日露戦争の影響から、中国を日本より後れた国と見なす風潮がありましたが、厳九郎はそうした偏った見方を持たず、親切に魯迅を指導します。後に魯迅は、この時の厳

10

九郎との交流を『藤野先生』という短編小説に著しました。二年生の終わり頃、魯迅は、医学で肉体を救うより、まず中国人の精神を変えなければと思うようになり、そのためには文学が最善という結論に達します。魯迅は退学し、仙台を去る決意を告げるため、厳九郎を訪ねました。

仙台を去った魯迅は、しばらくして中国へ帰国し、作家、思想家として多くの著書を世に出し、中国近代文学の父と言われるまでになります。魯迅は『藤野先生』の中で「彼の姓名を知る人がたとえ少ないにせよ」と書きましたが、この小説は後に中国の教科書に掲載され、藤野という名は中国人のほとんどが知るところとなりました。また、日本でも一部の教科書に掲載され、戦後は日中友好の象徴的な人物としても有名になりました。

30

- ※1 蘭方医学……オランダから伝わった医学。
- ※2 一徹……自分の信念を曲げないこと。
- ※3 漢学……中国から伝わった学問。
- ※4 風潮……世の中の様子や流れ。
- ※5 掲載……書物などに文章をのせること。

（『ふるさと福井の先人100人』福井県教育委員会による。出題のために省略した部分、表現・表記を変えたところがあります。）

問（一） たかしさんは、——①の部分「徹九郎はそうした偏った見方を持たず、親切に魯迅を指導します」を読んで、藤野徹九郎がどのような気持ちで魯迅（周樹人）に接したかを知りたいと思いました。そこで、たかしさんは図書館に行つて、さらに新しい資料2、資料3を集めてきました。藤野徹九郎はどのような気持ちで魯迅に接したのでしょうか。資料2、または、資料3の中の言葉を使って書きなさい。

## 資料2

（魯迅が書いた『藤野先生』）

解剖学は二人の先生の分担だった。最初は骨学である。そのとき教室にはいつてきたのは、色の黒い、やせた先生だった。八字ひげをはやし、めがねをかけ、大きさまさまの書物をわきに抱えていた。その書物を机の上におくと、ゆっくりとした口調で、なんどもつかえながら、学生にむかつて自己紹介をはじめた――

「私が藤野徹九郎というもので……」

うしろの方で、何人かの学生がどっと笑った。つづいて彼は、解剖学の日本における発達の歴史を講義しはじめた。例の小ささまさまの書物は、最初から今日までの、この学問に関するもので

あった。（中略）

一週間たつて、たしか土曜日だったが、彼は助手に命じて私を呼ばせた。研究室へ行つてみると、彼は、人骨やら多くの単独の頭がい骨やらにかこまれていた――そのころ、彼は頭がい骨を研究していて、のちに、本校の雑誌（ざっし）に一編の論文を発表した。

「私の講義は、書きとれますか。」と、彼はきいた。

「少しは書きとれます。」

「もつてきて見せてごらん。」

私は筆記したノートを差し出した。彼はうけとつて、一、二日してから返してくれた。そして、これからも毎週もつてきて見せ

るように、と言った。持ち帰って開いてみたとき、私はびっくりした。それと同時に一種の不安と感激とおぼえた。なんと私のノートは、最初から最後まで、全部朱を入れて添削※1してあるではないか。たくさんのぬけたところが書き加えてあるばかりでなく、文法のまちがいまでいちいち訂正ていせいしてあった。こうして、それは、骨学、血管学、神経学と、彼の担任している授業が終わるまで、ずっとつづけられた。(中略)

第二学年の終わりに、私は藤野先生を訪問し、医学の学習を断念したこと、およびこの仙台を去るつもりであることを告げた。彼の顔は、なんとなく悲しそうに見えた。何か言いたそうであったが、ついに何も言わなかった。

「私は生物学を学ぼうと思います。先生が教えてくださいました学問も、やはり役に立つと思います。」じつをいうと、私は生物学を学ぶ決意をしたわけではなかった。先生がいかにガツカリした様子を見せたので、慰めるなぐさつもりで、うそをついたのである。

(中略)

私は今でもよく彼のことを思い出す。私がわが師と尊敬する人のなかで、彼こそはもつとも私を感激させ、私を激励れいしてくれたひとりである。よく私はこう考える。彼の私に対する熱烈な期待と辛抱強い教えとは、小にしてこれを言えば、中国のため、つまり中国に新しい医学の起こることを希望されたのであり、大にしてこれを言えば、學術のため、つまり新しい医学が中国に伝わる

20

30

40

ことを希望されたのである。彼の性格は、私の眼中においても、また心中においても、偉大である。たとえ彼の姓名が多くの人々に知られていないとしても。

彼が訂正してくれたノートを、私は三冊の厚い本としてとじ、永久の記念にするつもりで保存しておいた。不幸にして七年前、ひっこしのさいに、途中で書籍しよせきをつめた箱が二つにわれ、書籍の半分を紛失かんじつした。あいにくこのノートも紛失したなかにあった。

運送店※2に督促まげして探させたが、なんの返事もなかった。ただ先生の写真だけは、今でも北京のわが家の東の壁かべに、机に向けて掛けられている。夜、仕事につかれてなまけたくなつたようなとき、そのたびに顔をあげて明かりの中に、彼の色の濃い、やせた顔を見やる。すると、いまにもあの抑揚※3のひどい口調で、つかえながら話しかけてくるように思われて、たちまちまた私は、良心がふるい起こされ、勇気がましてくる。

50

※1 添削……誤りを直したり、書き足したりすること。

※2 督促……早くするように強くうながすこと。

※3 抑揚……声の調子の上げ下げ、強弱。

(魯迅著・松枝茂夫訳『藤野先生』全国学校図書館協議会による。出題のために省略した部分、表現・表記を変えたところがあります。)



## 資料3

（藤野巖九郎が書いた『謹んで周樹人様を憶ふ』）

周さんは身長はそんなに高くなく、丸顔でかしこそうな人でした。この時代もあまり健康な血色であったとは思われませんでした。私の受持ちは人体解剖学で、教室内ではごくまじめにノートをとって居りましたが、何しろ入学された時から日本語を充分に話したり、聞いて理解することが出来なかった様子で勉強には余程骨が折れたようでした。それで私は時間が終わると居残って周さんのノートを見て上げて、あの人が聞き違いしたり誤っている処を訂正補筆したのでした。（中略）

私は少年の頃、福井藩校を出て来た野坂のさかという先生に漢文を教えて貰もらいましたので、とにかく中国の先賢せんけんを尊敬すると同時に、彼の国の人を大切にしなければならぬという気持ちがありましたので、これが周さんに特に親切だとか有難ありがたいという風に考えられたのでしょう。このために周さんの小説や、お友達ともだちの方に私を恩師として語っていてくれたんでしたらそれを読んでおけばよかったですね。そして死ぬまで私の消息しよしを知りたがっていたんでしたら音信おんしんをすれば、どんなに本人も喜んでくれたでしょうに……

今となつてはどうにも出来ません。残念なことでした。何しろこんな田舎いなかに引込んで世間のこと、特に文学ということにくわし

くないものですから何も知りません。それでも先日周さんの死なれたことは新聞で読みました。今はじめて話を聴いて以上のことを憶おもい出したのです。周さんの御家族ごかぞくはどうしていられますようか、子供こどもさんはおいでででしょうか。

僅わずかかの親切をそれ程までに恩誼おんぎとして感激かんきしていてくれた周さんの霊れいを厚く弔とむらうと共に御家族の御健康を祈いのってやみません。

※1 先賢……昔の優れた人。偉人。

※2 消息……無事かどうか。

※3 音信……たより、手紙。

※4 恩誼……恩を受けた義理、つながり。

（藤野巖九郎『謹んで周樹人様を憶ふ』『文学案内』昭和十二年三月号による。出題のために省略した部分、表現・表記を変えたところがあります。）

(二) たかしさんは、資料2、資料3を読んで、藤野厳九郎が魯迅のノートを丁寧<sup>ていねい</sup>に添削していたことを知りました。しかし、ノートを添削したことについて、藤野厳九郎と魯迅の思いには、大きなちがいがあることに気がつきました。二人の思いはどのようにちがいましたか、それぞれ説明しなさい。

(三) たかしさんは、集めた資料から、藤野厳九郎が幼い頃から論語(古代中国の書物)を学んでいたことを知りました。そこで、発表の最後に、論語の一節を用いて、彼の人柄<sup>ひとがら</sup>や生き方を印象的に伝えることにしました。あなたがたかしさんなら、次のア～エのどれを用いますか。一つ選んで、その記号を書きなさい。また選んだ理由を、資料1～資料3の中の出来事や行動と結びつけて説明しなさい。(ア～エのどれを選んでも、採点には影響しません。)

ア 子曰く、「学びて時に之を習う。亦説ばしからずや。朋遠方より来るあり。亦樂しからずや。」

(孔子はこう言われた。「学んだことを復習するのは、喜ばしいことだ。友人が遠くから訪ねてくるのは、楽しいことだ。」)

イ 子曰く、「力足らざる者は中道にして廢す。今女は画れり。」

(孔子はこう言われた。「力のない者が途中であきらめるのは仕方がない。しかし、今のお前は自分から限界をつくっている。」)

ウ 子曰く、「過ては即ち改むるに憚ること勿かれ。」

(孔子はこう言われた。「もし間違いがあれば、ぐずぐずしないで改めなさい。」)

エ 子曰く、「衆これを惡むも必ず察し、衆これを好むも必ず察す。」

(孔子はこう言われた。「みんなが嫌がることも、みんなが好むことも、自分がどう考えるかは必ず自分で判断しなさい。」)

(問題好、このめとも読き并せず。)

三

たかしさんは、次の文章を読み、——①の部分について、みどりさんたちと話をしています。次の文章とそのあとの「会話の一部」を読んで、問いに答えなさい。

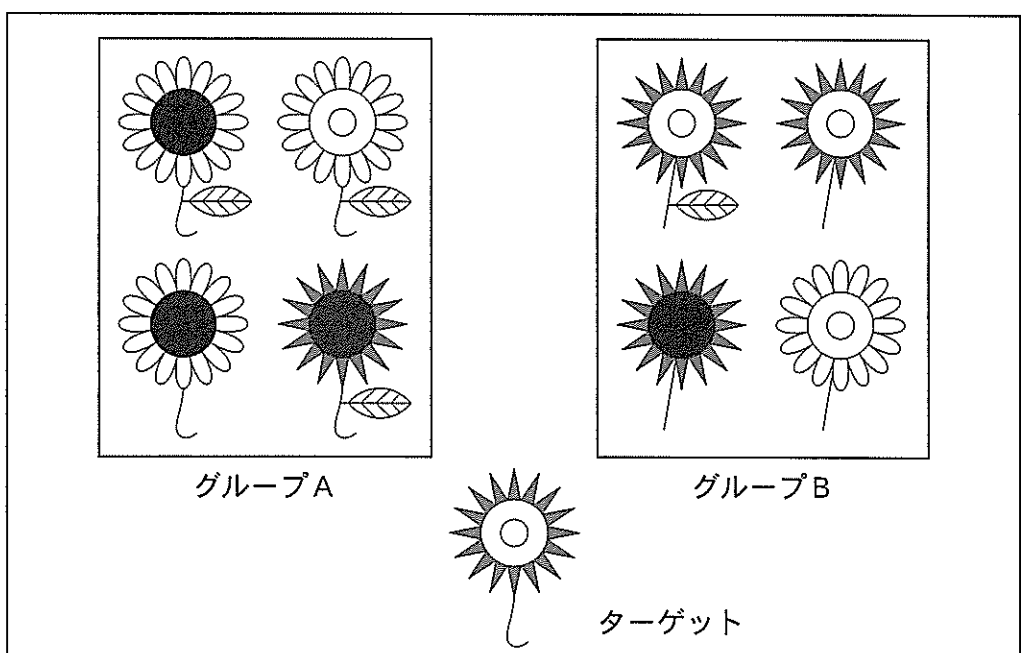
グループ分けの基準はどこに

世の中のさまざまな物事をどのように分類するかという分類法には二つのパターンがある。分析的思考様式ぶんせきしきの持ち主は、分類の際にその分類カテゴリー※1に含まれる物事すべてに共通する要因に着目する傾向があるのに対し、包括的思考様式ほうかくしきの持ち主は、分類カテゴリーに含まれる物事に対して、たとえ共通の属性※2でなくとも、全体的になんとなく似ているという判断で分類してしまう傾向がある。

これだけいってもちよつとわかりづらいと思うので、具体的な例として、この点を実証しようとしたカナダのプリティッシュ・コロンビア大学のアラ・ノーレンザイアン博士の試みを紹介しよう。

この研究では、ヨーロッパ系アメリカ人と東アジア文化圏※3からの留学生に、図1に示されているように、四つの花の絵をひとまとめにしたグループの絵を二組見せ、その下にあるターゲットの花の絵がどちらのグループに似ていると思うかを判断してもらった。①図1を見て、読者の皆さんもターゲットの花の絵について判断をしてみてほしい。(中略)

図1



増田貴彦『ボスだけを見る欧米人 みんなの顔まで見る日本人』により作成

こうした傾向をデザインについて考えてみると、面白いことがわかる。つまり、共通ルールに基づく分析的思考様式で判断する欧米の人たちにとっては、インターネットのフロントページに何

※5 一貫性がないという理由で省いてしまうか、少なくとも、別の機会に話題にする場合が多い。そのためフロントページで語るのに

ふさわしい大枠の 카테고리 だけを出しておけば十分と考える傾向が強いのだろうか。

一方、包括的思考様式に基づく家族的類似性判断から考えるとどうなるだろうか。

たとえば、東アジア文化圏の人がウェブサイトのデザインをしたとしよう。この場合は、まず、すべての物事に共通の大枠の 카테고리 を見出すのが苦手で、それぞれ個別の物事を、全体的類似性によって関連づけて、フロントページにとりこんでしまう。

そのため、そうした曖昧なルールに基づく判断のもとで省ききれなかつたさまざまな物事が、フロントページに入り込んでしまふと考えることができる。

それぞれの文化で主流の思考様式に基づく考え方は、そこで育まれるものの見え方とあいまって、物事をグループ分けする際に、どれだけ物事の間を関係性を重視するかに影響を及ぼすと考えられる。

たとえば、分析的な判断が主流の欧米文化圏においては、物事

をグループ分けするときには、先の例で述べたように、物事の間共通の要因に基づく判断を行いがちだろう。しかし、包括的な判断が主流の東アジア文化圏においては、そうした共通の要因よりも、物事の間にある関係性に着目した判断を重視する傾向があると考えられる。

※1 カテゴリ……範囲、領域。

※2 属性……その事物が持っている性質。

※3 文化圏……似たような文化を持つ地域。

※4 フロントページ……ウェブサイトなどの最初のページ。

※5 一貫性……最初から最後まで一定の見方や考え方でまとまっている様子。

(増田貴彦『ボスだけを見る欧米人 みんなの顔まで見る日本人』講談社による。出題のために省略した部分、表現・表記を変えたところがあります。)

みゆきさん

ターゲットがどちらのグループに似ているかを判断する前に、もう一回、この文章の内容を確認してみようよ。

みどりさん

うん、そうだね。この文章で述べられている「分析的思考様式」っていうのは、「**Q**」「**P**」で判断する考え方なんだよね。

「**Q**」で判断する考え方なんだよね。

たかしさん

そうか、なるほど。これで「分析的思考様式」と「包括的思考様式」は理解できたよ。でも、他にも難しい言葉があって、まだよく分からないな。3行目にある「分類カテゴリー」っていう言葉は、**図1**でいうと、「グループA」と「グループB」のことを指しているんだよね。

みどりさん

うん、そうだよ。その後に述べられている「要因に着目する」っていうのは、**図1**でいうと、花の各部分の形に注目するということだよ。

みゆきさん

花の各部分って何のことかな。

みどりさん

たとえば、花びらや花の中央、茎なんかのことだよ。

たかしさん

なるほど。そう考えると具体的でわかりやすいね。つまり、花の各部分の形に注目して、どちらに似ているかを判断するってことだよ。じゃあ、今のことをもとにターゲットを分類してみよう。

問(一) 【会話の一部】の中にある空らん「P」「Q」にはどのような言葉が入りますか。次のア～エから、最も適切な組み合わせを一つ選び、記号で答えなさい。

- |                                             |                                           |
|---------------------------------------------|-------------------------------------------|
| ア P―似ている部分がたくさんあるかどうか                       | Q―すべてに共通している部分があるかどうか                     |
| イ P―すべてに共通している部分があるかどうか                     | Q―似ている部分がたくさんあるかどうか                       |
| ウ P―お互い <small>たがひ</small> に関係している部分があるかどうか | Q―すべてに共通している部分があるかどうか                     |
| エ P―似ている部分がたくさんあるかどうか                       | Q―お互い <small>たがひ</small> に関係している部分があるかどうか |

(二) あなたがターゲットを分類するとしたら、「グループA」、「グループB」のどちらに分類しますか。自分がどちらに分類するかを書いて、その理由を具体的に説明しなさい。(どちらのグループに分類しても、採点には影響しません。)

デザインX



# 高緑小学校



—克己・創造・敬愛—



高緑小学校

- 学校の紹介
- 学校行事
- お知らせ
- アクセス

デザインY

## 高緑小学校

—克己・創造・敬愛—

在校生の方へ 保護者の方へ 地域の方へ 他の学校の先生方へ

- 学校の紹介
- スクールプラン
- 事務手続き
- ボランティア
- 研究
- クラブ

### 【学校行事】

- 入学式が行われました。
- 6年生が修学旅行(京都)に行ってきました!!
- 運動会、大成功でした!!
- 卒業式が行われました。

### アクセス

### ○お知らせ○

- 校長室から
- 学校だより
- 学年だより
- 年間行事予定

(三) この文章を読んだみどりさんたちは、自分たちの学校のフロントページのデザインを考え、その特徴と便利さについて【表】にまとめることにしました。【表】の(ア)・(ウ)には、デザインXとデザインYのそれぞれの特徴をまとめます。また、その特徴がフロントページを見る側にとって、どのように便利なのかを、【表】の(イ)・(エ)にまとめます。【表】の(ア)・(エ)に入る内容をそれぞれ解答らんに書きなさい。ただし、(ア)・(ウ)にまとめる特徴については、文章中の言葉を用いること。



【表】

| デザインY |            | デザインX |            |
|-------|------------|-------|------------|
| (ウ)   | フロントページの特徴 | (ア)   | フロントページの特徴 |
| (エ)   | どのように便利なのか | (イ)   | どのように便利なのか |